

| | | | | |
|---|---|------|-----|--|
| 件名 | 向島中学校と鐘淵中学校の統合新中学校計画に伴う防災機能の充実に関する陳情 | | | |
| 提出者住所氏名 | 墨田区堤通二丁目 白鬚東地区自治会連合会会長 梅若橋自治会会長 ●● ●● 外7人 | | | |
| 受理年月日 | 平成21年9月3日 | 受理番号 | 第5号 | |
| <p>要旨</p> <ol style="list-style-type: none"> 校舎内に整備されるトイレを高齢者や災害時要援護者の人でも容易に使い、災害用に転用できるよう十分に配慮してほしい。また、グラウンドほかの敷地内にマンホールトイレ等の衛生的な災害用トイレを、想定される避難民の多さに鑑みでできる数だけ作るとともにその配管、下水道管きよの耐震化を図ってください。 広域避難場所内の雨・露・寒気から避難民を守れる避難所としてこの学校への地域の期待は大きいため、体育館だけでは収容力に限界があるので、教室等の利用を含め災害時避難民収容能力を高めた学校にしてください。 この学校が地域防災の中心と位置付けられるためにも、大震災時に真っ暗では何もできません。停電に対応した大型太陽光発電装置等の非常時用電源を確保してください。 広域避難場所の中の中学校として、正確に外部と情報交換できる通信インフラを具備し、多くの避難民に対応した現地対策本部機能を有する部屋を校舎内に確保してください。 <p>(理由)</p> <p>建設以来30年たっても白鬚東地区防災拠点、近隣に多くの地震災害危険地域の存在を考えると、ますます重要になっていると私たちは考えています。</p> <p>昨年9月9日に区議会並びに区長・近隣町会の多大なご支援による「オール墨田」の力により、白鬚東地区防災拠点の計画避難人口の減少という机上のプランによる非常用地下貯水の削減計画にストップを掛けることができたことは、地元としては大変感謝しているところです。</p> <p>また、その時同時に「墨田区白鬚東地区防災拠点の整備・管理・運営に関する住民の声」を東京都に提出し、どの想定でも絶対数の足りない非常用トイレの問題あるいは都・区が住民と合意している災害時行動マニュアルの成案化の問題も指摘し、副知事から主としてそれは区の仕事であるが下水道管きよの耐震化によ</p> | | | | |

る協力や協議促進など前向きな回答をいただいているのはご承知のとおりです。

私たちは、白鬚東地区防災拠点の建設経緯や当地区がほとんど都有地であることを考えるとき、通り一遍の役割分担論で区にばかり押し付けるのではなく、東京都もこれらの問題にはもっと責任を持つべきであると主張しています。

しかし、この度のように区立の統合中学校を作るという専ら区が主体的に実施する建設事業においては、災害時行動マニュアルの中にも示されている都区役割分担の中で、地域住民に責任を負う行政組織として、幾度かの地元と区も交えた東京都との協議の場で明らかになっている、広域避難場所としてのこの地域には足りないとされている上記の点については、区としても取り得る限りの防災施策と科学的な知見・技術を駆使して万余の区民が苦しまないような施設整備の推進をお願いしたいというのが私たちの考えです。

私たちは、平成15年9月の「白鬚東地区の防災設備を見直すにあたっては拙速に設備を廃止するのではなく、区民の生命と財産を守る立場から、防災拠点機能の有効活用を図り、防災まちづくりに向けた積極的な取組みをするよう強く要望いたします」とした東京都への区議会の要望を支持しているのです。それを文字通り推進する立場からも、上記4点の事項の実現をここにお願いいたします。

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上